

令和5年度学校評価アンケート（保護者）結果

質問項目	前期（7月）	後期（2月）	差
①お子さんは、本校教育目標「自分で考え、自分で判断し、行動できる生徒」に育っている。	72.9	81.1	8.2
②お子さんは、本校教育目標「人の役に立てる生徒」に育っている。	81.4	80.0	▲ 1.4
③お子さんは、夢の実現に向けて進んで学ぶ生徒に育っている。	53.4	58.9	5.5
④学校は、教育目標や教育方針、学年・学級目標等を配付物（学校便り、学年便り）やホームページによって家庭に分かりやすく伝えている。	89.8	93.3	3.5
⑤学校は、行事や学校公開などを通して、子どもたちの学校生活の様子が分かるようにしている。	90.7	91.1	0.4
⑥学校は、安心・安全対策（避難訓練、コロナ対策、交通安全教室）を適切に行っている。	95.0	90.0	▲ 5.0
⑦学校は、子供の努力を認めたり、励ましたりして、生徒一人一人を大切にしている指導に努めている。	94.9	85.6	▲ 9.3
⑧学年や担任の先生は、子供の将来を考え、熱意をもった指導に努めている。	86.5	86.7	0.2
⑨学校は、学習内容の分かりやすい授業を工夫している。	72.1	73.4	1.3
⑩お子さんは、一日平均、家庭でどれくらい勉強をしていますか。勉強時間には、習い事（スポーツ系も含む）や学習塾の時間も含まれます。	2時間以上 17.8 1時間30分程度 17.8 1時間程度 27.1 30分程度 28.0 まったくしない 9.3	2時間以上 17.8 1時間30分程度 21.1 1時間程度 24.4 30分程度 31.1 まったくしない 5.6	2時間以上 0.0 1時間30分程度 3.3 1時間程度 ▲2.7 30分程度 3.1 まったくしない ▲3.7
⑪学校は、基礎・基本の定着や学力向上に向けた授業、家庭学習の習慣化などの取り組みを行っている。	75.5	74.4	▲ 1.1
⑫学校は、ICT機器（GIGAタブレット活用、デジタル教科書）を積極的に活用した授業を行っている。	75.4	83.3	7.9
⑬お子さんは、楽しく学校生活を送っている。	90.7	90.0	▲ 0.7
⑭学校は、道徳教育の充実を図っている。	64.4	74.5	10.1
⑮学校は、健康・体力向上に向けた行事や授業の工夫を行っている。	77.1	78.9	1.8
⑯学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすくなっており、それらに適切に対応している。	85.6	87.8	2.2

令和5年度 学校評価報告書

行方市立玉造中学校長 山野 稔

1 本校の教育目標

「自立貢献」 ～人の役に立つ喜びを実感できる生徒の育成～

2 本年度の重点施策

生徒が主役 ～一人一人のよさを認め、生かし、自信をつけさせる～

- ① 学力向上（磨き合い）
- ② 居場所づくり、絆づくり（響き合い）
- ③ 強い心・強い体づくり、本物に触れる体験（高め合い）

3 評価結果

重点施策① 学力向上		
努力事項	取組等の成果と課題	次年度の改善策
1 生徒が意欲的に取り組み「できた」「わかった」と実感できる授業の実践	【具現化のための取組】 ○学力向上に向けた研修（研究授業・協議等）による授業改善 ○全教科で玉中授業スタイルの実施 ・学力向上に向けた研修の充実 ・生徒の活動・対話時間を増やす授業の改善 ○習熟度別学習による個に応じた指導の実施 ・数学科・英語科において複数教員により実施 ○ICTの効果的な活用 ・普段の授業から一人一台端末を使いたいときに使えるような授業の工夫	◇「学び直しの時間」の充実に向けて、教育課程や授業の工夫改善を図る。 ◇ICT機器を活用した授業の積極的な実践とともに、教師一人一人のメディアリテラシー向上、ICT機器活用能力の向上を図る。
2 学んだ学習を確実に身に付けさせる実践	○学習内容を確実に身に付けさせる取組 ・日課表を工夫し、「学び直しの時間」を創出。全教科においてすべての職員が関わり、複数教員によって実施 ・加配教員による英語科の授業実践	◇家庭学習の習慣化に関しては、今後も生徒の実態を考慮しながら工夫して実施していく。
3 自ら学ぶ意欲を高める指導の充実	○家庭学習の習慣化 ・家庭学習の手引きの再編と生徒へのガイダンスの実施 ・家庭学習強化週間の設定 【成果】 ・「授業がよくわかる」と回答した生徒が、昨年度より6%増加した。 ・県学力診断テストにおいて、1学年英語（2.1ポイント）、1学年社会（0.6ポイント）と2学年数学（11.7ポイント）、2学年国語（0.5ポイント）が県平均を上回った。2学年については、5教科平均も0.9ポイント県平均を上回っていた。これも、学力向上に向けた研修の充実と振り返りの時間を確保したことによる成果と考えられる。 ・家庭学習への取組を強化したことにより、「90分以上家庭学習をする」生徒の割合が59.1%（昨年度より5.1%上昇）となった。 【課題】 ・家庭学習の時間は増加したが、家庭学習で何をしてよいか分からないという意見もあった。また、生徒自身が授業と家庭学習につながりを実感できず、学力向上に直結していない様子が見られた。	◇生徒の学力向上に繋がる、有益な家庭学習になるような工夫改善を図る。

重点施策② 居場所づくり、絆づくり		
努力事項	取組等の成果と課題	次年度の改善策
1 一人一人が活躍できる場や機会の創出	【具現化のための取組】 ○生徒が主体で取り組む学校行事の実施 ・体育祭 ・かすみ祭（合唱） ○学年を超えた縦のつながりを深化 ・生徒会活動や縦割り班活動を実施	◇コロナ禍後の行事等の在り方について、内容の見直しを図る
2 道徳教育の充実	○「自立貢献」を核とした道徳教育の充実 ・担任外を含め道徳の授業を実施するローテーション道徳の実施 ○ボランティア活動の充実	◇生徒会やボランティア委員会を中心に生徒による生徒（学校）のための活動を促していく。
3 生徒一人一人を大切にしたい教育の実践	○特別支援教育の充実 ・特別支援担当者の研修会への積極的な参加 ・自立活動の授業の充実 ・普通学級にいる生徒も含めた個の困り感に寄り添った指導 ○生徒一人一人の人権に配慮した指導 ・生活アンケートや日常の観察によるいじめ問題等の早期発見とチームによる早期対応 ・多様性に配慮した制服の見直し ○いじめ、不登校生徒等の関係機関との連携 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーだけでなく、銚田児童相談所、行方警察署、市役所、教育委員会等と、事例に応じて関係機関と連携 【成果】 ・コロナが5類に移行したことで、安全面に配慮しながら、生徒主体の活動を多くの方に見てもらうことができた。 ・「学校が楽しい」、「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的な回答する生徒はそれぞれ88%、91%と高い結果であった。 ・校長の呼びかけにより、学校花壇の定植学校花壇の定植ボランティアを募集したところ、多くの生徒が参加した。 ・縦割り班活動による、校庭のボランティア清掃活動を実施できた。 ・多様な「生きづらさ」を感じている生徒が多く在籍していることから、特別支援教育に対する教職員の研修の充実に努めてきたことで教職員の意識は高ってきた。 ・生徒や保護者の困り感や事例に応じた関係機関と連携したことで、解消できた事例が増えた。 ・道徳の授業や普段の学校生活での指導により、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に「その通り」と回答した生徒は96%であった。 【課題】 ・学校生活アンケートの「学校が楽しい」と回答した生徒は、昨年度と比較して、大きな伸びは得られなかった。まだ、生徒が中心となって取り組める活動を充実させる余地があると考えられる。 ・不登校や長欠生徒の増加傾向が見られる。本人や保護者の困り感に寄り添い対応を継続していく必要がある。	◇「個別的教育支援計画・指導計画」の修正を行い生徒にとってより有益な手立てを講じられるようにする。 ◇インクルーシブ教育、合理的配慮についての共通・共通実践を深める。 ◇特別支援教育の視点に立った生徒理解と生徒指導の充実を図る。

重点施策③ 強い心・強い体づくり、本物に触れる体験		
努力事項	取組等の成果と課題	次年度の改善策
1 「自分」を大切にすることの充実	【具現化のための取組】 ○思春期ふれあい講座、薬物乱用防止教室等の実施 ○SOSの出し方教育 ・生徒指導主事による「SOSの出し方教育」を全学級で実施 ○むし歯治療の啓発活動	◇外部講師による保健に関する指導を予定どおり実施することができた。専門家による指導の効果は大きいことから今後も実施していく。
2 体力作りの推進	○体育の授業の工夫（運動量の確保） ・生徒が主体的に取り組める、活動や場の工夫 ○生徒が主体的に取り組む運動部活動	◇運動部活動の加入率が6割程度と低いため、昼休みの外遊びの推奨等、体力向上の仕掛けをしていく。
3 早寝・早起き・朝ご飯の推進	○栄養教諭（北浦中兼務）による食育授業の充実 ・全学級で食の大切さに関する食育教室の実施 1学年「朝食の大切さについて理解する」 2学年「部活動を考えた食事について理解する」 3学年「受験に備えた食事について理解する」	◇緊急時に自分を守れることや活動中のけがの未然防止ができるなど安全教育の充実を図る。
4 本物に触れる体験の推進	○行方市教育委員会主催の陸上自衛隊施設学校音楽隊による芸術鑑賞教室に参加した。本物のオーケストラの演奏を聴く機会には大きな意味があると考えている。 ○外部人材の活用 ・専門家による指導 ・コミュニティ・スクールの活用 【成果】 ・産婦人科医による思春期講座、薬物乱用防止講師による薬物乱用防止教室、栄養教諭による食育の授業等、外部講師による行事を予定どおり実施できた。専門家による指導の効果は大きく、生徒たちも真剣に取り組むことができた。 ・コミュニティ・スクールによる、授業ボランティアの活用ができた。1学年で技術科の「のこぎり・かんな指導」、2学年で総合的な学習の時間「電話のかけ方講習」生徒が主体的に学習に取り組むことができ、学びや体験が充実した。 ・「SOSの出し方教育」を実施したことにより、「助けて」と発信する生徒が増えた。 ・むし歯の治療率は、個別の通知や保健だより、三者面談等で知らせてきた結果64%となり、昨年度よりも20%近くアップした。 ・県大会出場 サッカー部、男女ハンドボール部 バレーボール部、卓球部、野球部 ソフトテニス部、バドミントン部 【課題】 ・体力テストの結果は、「A+Bの割合」が49.9%と昨年度の46.2%と同等程度となり、生徒の運動能力に関する実態を分析し、必要な運動を意図的、計画的に取り入れて体力の向上を図っていく必要がある。 ・外部人材の活用をさらに拡大できるよう、関係機関やコミュニティ・スクールと連携していく必要がある。	◇むし歯の治療率は、これまでの取組に加えて、保護者にさらに理解を得られるよう発信の工夫をしていく。